

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	中部ジャワ州デマック県、ケンダール県、スマラン県の貧困層の若者、特に若年女性が技術を身につけ、経済的に自立する。 若年女性を中心とした困難な状況にある若者の経済的自立支援を目指し、3期のうちの第1期にあたる今期は、公立職業訓練校（以下 BLK¹）の能力強化を通じた職業訓練、社会人教育導入、就労支援を実施した。 従来の BLK の研修生より、より生活が困窮している、低学歴である、僻地に住んでいる等の困難な状況を抱え、今まで職業訓練を受ける機会がなかった若者を中心に、女性を優先して研修生を募集した。当事業の研修を修了した279人の若者のうち84%にあたる234人が女性で、縫製または美容の技術を身に付けることができた。また、研修生の88%は、縫製、美容の技術以外に、社会人教育を通じて、仕事をする上で必要となるコミュニケーションや自己管理等のスキルや、女性が仕事を継続しやすいようにジェンダーに関する知識も習得し、修了生の75%（208人、うち女性169人）が就職をして経済的自立を実現した。
(2) 事業内容	対象3県において、以下の活動を実施した。 1. BLK の能力強化 1-1. 州や県関係者との準備会合の実施 2015年11月から2016年1月にかけて、州政府、地方開発企画庁、州労働局、県労働局、BLKなどの関係者と会合を持ち活動計画を策定し、1月28日に署名式を開催し、州政府とプラン・インターナショナル・インドネシア（現地提携団体）の間で覚書を交わした。署名式には現地行政関係者他連携する企業などから合計34人が参加した。 1-2. ニーズ分析ワークショップおよび雇用主調査 以下のワークショップおよび調査を2015年1月～3月に実施し、結果を事業計画に反映した他、上述1月28日開催の署名式で関係者に情報の共有をした。 ・ BLK の状況・ニーズを分析するワークショップ ・ 対象地域の若年女性ニーズを聞き取り調査 ・ 連携する企業の状況・ニーズの調査 1-3. 社会人教育マニュアル、研修生用テキストの作成 暫定的なテキストを用いて社会人教育を実施し、BLKの指導員、研修生、雇用主の意見を取り入れ、労働移住省の基準に基づいた講師用マニュアルおよび研修生テキストを開発した。社会人教育の内容は、コミュニケーション・スキル、自己管理、職場での倫理、面接の準備、ジェンダー、職場でのセクシャル・ハラスメント防止等である。社会人教育の指導法マニュアル100部、研修生用テキスト500部およびブックレット500部を印刷し労働移住省、県労働局、BLKに配布した。これらは、事業終了後にBLKが社会人教育を継続していくために使用される。

¹ Balai Latihan Kerja、インドネシア語で職業訓練センターを意味する。

	1-4. 社会人教育の指導法研修 1月26日～28日に BLK の指導員 17 人（デマック 11 人、ケンダール 2 人、ウンガラン 4 人）を対象に社会人教育の指導法研修を実施した。 2. 女性や貧困層の職業訓練アクセスの改善と研修の提供 2-1. 研修生の募集、入学支援 より貧困層の若者や女性が職業訓練に参加できるように、各県の社会福祉局や地域の NGO と連携し、貧困地域や BLK へのアクセスが悪い地域を中心に研修生の募集を行った。 2-2. 職業訓練の実施 BLK で縫製および美容の職業訓練を合計 15 回、279 人（うち女性 234 人）を対象に実施した。BLK から離れた地域に住む若者にも職業訓練を提供できるように、一部コースでは、県労働局と連携関係にある民間職業訓練センター（LPK²）で実施した。 職業訓練実施の詳細は別紙 1 参照 2-3. 機材ほかインフラ支援 より労働市場のニーズに合った実践的な職業訓練が提供できるように、縫製コースには工業用ミシン、工業用裁断機、ボタン付け特殊ミシン等を、美容コースでは、シャンプー台、イス、スチーマー、化粧品、鏡台等の機材を供与した。また、研修環境全般を整備するため、コピー機、書棚、プロジェクター、スピーカー等の機材および備品も BLK に供与した。 供与機材の詳細は別紙 2 参照 2-4. 社会人教育の実施 合計 30 コース、533 人の研修生を対象に社会人教育を実施した。研修生 279 人には職業訓練とあわせて社会人教育を行い、当事業の支援対象外である通常コースの研修生 254 人には社会人教育のみを行った。 社会人教育実施の詳細は別紙 3 参照 2-5. キャリアカウンセリング・就職支援 BLK と協働で修了生への進路相談、就職先斡旋、面接同行、就職後のフォローアップを行った。修了生 279 人（うち女性 234 人）のうち、75%にあたる 208 人（うち女性 169 人）が事業期間中に就職をした。 就職情報の詳細は別紙 1 および別紙 4 参照 2-6. 修了生の就職状況追跡調査 修了生 279 人に対して、修了生に対して、就労の有無、給与、雇用条件等の就職状況を調べるため、調査票を用いて電話または家庭訪問による追跡調査を行った。調査結果から、事業実施期間中に就職した 208 人の大多数は対象地域での最低賃金以上の職に、職業訓練修了から 1 ヶ月以内に就いている。また、縫製コースの修了生は主に地元の縫製工場の縫製工として、美容コースの修了生も主に地元の美容院で美容師として働いている。 修了生の就職状況追跡調査結果は別紙 4 参照
--	--

² Lembaga Pendidikan Kejuruan、インドネシア語で職業教育機関を意味する。

	3. 社会人教育、ジェンダー配慮の主流化に向けた連携促進 3-2. 活動の広報及び手法の記録 インドネシアで若者の雇用や女性の経済的自立を促進するために有効な社会人教育を普及させる目的で、本事業の活動の様子や成果がわかる映像を制作し、労働移住省、県労働局、BLK、LPK、連携する企業等に配布した。3年計画の事業を第1期で終了することとなったため、第2期に計画していた本活動を今期に前倒しして行った。 ・事業評価ワークショップ 上述 3-2. と同様に、第1期での事業終了を受け関係者と当事業の成果、課題、学びを関係者と共有し、当事業を持続・発展させていくための今後の各自の役割について確認する評価ワークショップを実施した。2016年9月5～7日は各県で、県労働局および BLK 職員、雇用主を中心にデマックで 43 人、ウンガランで 38 人、ケンダールで 42 人が参加し、事業の活動および供与した機材の正式なハンドオーバーを行った。 <table><tr><th>場所</th><th>日付</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>ケンダール</td><td>2016 年 9 月 5 日</td><td>60 人</td></tr><tr><td>デマック</td><td>2016 年 9 月 6 日</td><td>37 人</td></tr><tr><td>ウンガラン</td><td>2016 年 9 月 7 日</td><td>50 人</td></tr></table>	場所	日付	参加人数	ケンダール	2016 年 9 月 5 日	60 人	デマック	2016 年 9 月 6 日	37 人	ウンガラン	2016 年 9 月 7 日	50 人
場所	日付	参加人数											
ケンダール	2016 年 9 月 5 日	60 人											
デマック	2016 年 9 月 6 日	37 人											
ウンガラン	2016 年 9 月 7 日	50 人											
(3) 達成された成果	1. BLK の能力強化 <u>BLK 指導員が自信をもって社会人教育を行うようになる</u> ・社会人教育の能力を獲得した BLK 指導員の割合（3年間の目標 80%） 今期実績：第2期よりデータをとる予定であったため、今期のデータはなし。 社会人教育の指導法研修における研修前、研修後テストの結果では、参加者 17 人の平均回答率が事前 81%から事後 99%と 18%知識の改善が見られた。 ・社会人教育の実施回数 3年間の目標：120 回 今期目標：23 回 今期実績：30 回（130%達成） 2. 女性や貧困層の職業訓練アクセスの改善と研修の提供 <u>修了者の 80%が研修後 3 か月以内に就職する</u> ・研修を受けた若者の数 3年間の目標：全体 1,600 人、うち女性 1,280 人 今期目標：全体 300 人、うち女性 240 人 今期実績：全体 286 人(95%達成) 女性 239 人（99%達成） ・実施された研修回数（3年間の目標 80 回）： 今期目標：15 回 今期実績：15 回（100%達成）												

	・ 研修を修了した研修生の割合（3 年間の目標 80%） 今期実績：98%（122%達成） ・ ソフトスキルを習得した研修生の割合（3 年間の目標 80%） 今期実績：88%（110%達成） ・ 研修を修了して就職した研修生の数（3 年間の目標修了生の 80%） 今期実績：研修後 3 か月以上の修了生 71%（92%達成） 研修後 3 か月未満の修了生 75%（93%達成） 全体の就職率 75% 美容コース修了生の就職先が限られているので、事業実施期間中の就職率は 47%となっている一方で、縫製コースの就職率は 89%と今期の指標を達成することができた。残り 25%の修了生は、事業期間中の就職はできなかったが、研修で得た技術と知識が生かせるよう、就職活動を引き続き行っていく。 3. 社会人教育、ジェンダー配慮の主流化に向けた連携促進 <u>若者の雇用の関係者間で社会人教育、ジェンダー配慮の共通理解が持たれるようになる</u> ・社会人教育を導入した BLK の数(3 年間の目標：3 か所) 今期実績:3 か所で導入の基礎が確立 ((4)持続発展性、2. 社会人教育に記載 参照) ・職場におけるジェンダー配慮への理解度を向上させた雇用主の割合(研修に参加した雇用主の 80%) ・政府関係者が参加する若者の雇用と社会人教育に関するシンポジウムが開催される 第2、3期に実施を計画していた活動のため、今期における成果はなし。
--	--

(4) 持続発展性

当事業では、事業終了後の持続発展性を確保するために、BLK の能力強化を目指して労働移住省、県労働局、BLK との協働で活動を実施してきた。3 年計画で申請していた事業を第 1 期で終了することになるが、以下の点から今後も活動の成果を持続発展できると期待される。

1. 職業訓練の実施

当事業では、より労働市場のニーズに合った職業訓練を BLK が実施できるように、BLK の既存コースである縫製コースと美容コースに機材を供与し、研修を実施した。そのため、事業終了後も供与した機材を使って、BLK で縫製コースと美容コースが継続される。また、供与した機材は、当事業を継続させる目的で BLK が維持・管理を行っていくための覚書を交わした。

2. 社会人教育

BLK が社会人教育を導入するための支援として、まずは BLK の指導員を社会人教育のトレーナーとするための研修を実施した。労働移住省の定めるカリキュラムに沿った指導員用マニュアル、研修生用テキストを今期中にデザイン、印刷し、各 BLK に配布したため、今後はこのマニュアルとテキストを使って、BLK 指導員が社会人教育を実施していくことが可能である。また、労働移住省は今後全国的に BLK での社会人教育を普及していく方針で、プラン・インターナショナル・インドネシアが事業終了後もフォローアップを行っていく計画である。

3. 事業全般

プラン・インターナショナル・インドネシアは、若者、女性の経済的エンパワーメント事業を重点的に実施しており、労働移住省と継続的に連携をしている。加えて、別事業として、スマラン特別市内にある公立産業職業訓練センターとも協働で職業訓練を実施しており、今後も現地政府との連携が期待できる。